

---

# イノセント・イージス

美捺

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

イノセント・イージス

### 【Nコード】

N1733S

### 【作者名】

美捺

### 【あらすじ】

西暦2037年世界は、古来より続く古魔術師達の『<sup>イン</sup>超魔術結社<sup>デックス</sup>禁書目録聖省』と、科学と魔術を融合させた現代魔術師達の『真魔術結社ロンリエ』によって二分されていた。

そしてこの二つ結社の間では、1000年にも亘る長い戦が繰り返され誰もが終わらない戦いに疲れ果てていた。そんな中第328次大戦でついに終止符がうたれた、『<sup>イン</sup>真魔術結社ロンリエ』の魔術師の手によって、『<sup>イン</sup>超魔術結社禁書目録聖省』の魔術師は敗れ去った。

・・・

それから2000年が過ぎこの戦いは文献などでしか知られなくなつた。

そして、当時発展して現代魔術も今となつては、ほとんどの人が使えなくなつていた。

## キャラクター紹介

### ・天城蒼あまぎ そう

本編の主人公セレント学園2年A組成績も運動神経も平均値現代魔術や体術も使えないどこにでもいる普通の学生だったが、ある日をさかえに特別な存在になっていった……

### ・久野原美来くの はら みらい

主人公とは幼馴染で主人公と同じセレント学園2年A組成績は学年1位の天才少女魔術も多少は使える。

### ・五十嵐秋脊いがらし あきせ

主人公の親友で成績は悪いが魔術はトップクラスで次期

セブン・イーターセブン・イーター候補の天才だが無償の女好きがたまに傷。

### ・千歳厳十郎ちとせ こんじゅうろう

主人公のいる世界で最強の「セブン・イーター」と呼ばれる魔術師の1人

### ・セレナ

主人公の夢に現れた不思議な少女……

## 第一章 覚醒の気配（前書き）

初めて投稿でミスがあるかもしれません。

## 第一章 覚醒の気配

### 第一章 覚醒の気配

腹がせり上がってきて肺がつぶれそうだ。うまく呼吸ができない、息が途切れ途切れになりながら俺は、無我夢中で逃げていた。そろそろ体力の限界だった、「ここを逃げ切れば！」とは行ってもこの辺りの道なんて俺は知らなかったが、路地裏を全力で走っていた、まだ奴らは追ってきていた「つう!？」俺が曲がった先は行き止まりだった、「くそ！」そう叫んだ瞬間俺の頭に激痛が走った「つかまえたぞ!!」その言葉を聞いた直後俺は意識を失った・・・「声が聞こえる」「ふと振り向くと、そこには白いワンピースを着た少女がいた。「ここはどこだ?」

「ここは彼方の夢の中」と少女は答えた「夢の中、そうかこれは夢か」俺はやつと自分の状況を理解した。「なぜ彼方は力を使わないの?」と少女は俺に聞いてきた、「力?何のことだ?」

俺は少女に聞いた、「彼方は力を持っている、誰にも負けない最強の力を」と少女は答えた「最強の力なんて持ってない、俺はただの学生だぞ!」そう俺はただの学生なのだ魔術も体術も使えない。「そんなことない、彼方は気づいてないだけ、いずれ自分の力に目覚める時がきつと来る、それまでまたお別れ彼方は目を覚まさなければならぬわ」と少女は言った「さて!!お前は一体何者だ!それに力とはなんだ!!」俺は叫んだ。「そうね、私はセレナ、力の事はいずれ話してあげる、またお話ししましょう。」と彼女は言った。俺は、なにか言い返そうとしたが、その言葉を聞いた後、俺は急に眠気におそわれ徐々に目をつむった。「うう」俺は再び目を覚ました。「蒼!!」突然強い衝撃が体に走った「蒼よかった・・・目が覚めて。」と言われた。俺はやつと意識がはつきりしてきた。「痛いよ、美来」俺はいつた。「だって、だって蒼もう10日も寝てたんだよ!？」と言って泣いて抱き付いてきたのは、久野原美来だつ

た、彼女は俺と同じ年でクラスも一緒の言わば腐れ縁である。「俺に一体何があつたんだ？」と美来に聞いた。「え？何も覚えてないの？」と更に聞き返された。「ああそうらしい・・・」と俺は答え「蒼はね、血だらけで路地裏に倒れてたんだよ！あと少し発見が遅かったら蒼死んでたってお医者さんも言ってたんだからね！！」と彼女の話の聞いて全てを思い出した。俺は追われていたんだ・・・「思い出したよ、心配してくれてありがとな。」俺は美来にそう言つて再び眠りについた・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1733s/>

---

イノセント・イージス

2011年10月8日23時32分発行